

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22720264

研究課題名(和文) 中世初期東インドにおける社会形成：規範の構築と諸社会集団間の交渉

研究課題名(英文) Social Formation in Early Medieval Eastern India: Construction of Norms and Negotiation among Social Groups

研究代表者

古井 龍介 (FURUI, Ryosuke)

東京大学・東洋文化研究所・准教授

研究者番号：60511483

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：当研究により、ベンガルにおけるカースト的社会秩序形成に結実する中世初期の社会変化、すなわちブラーフmana層のアイデンティティ、ネットワーク、文化的権威の確立、同業者集団の組織化およびブラーフmana層によるそれら集団の序列化と体系化への試みが明らかとなった。また、東インド他地域における社会形成過程の相異についても、一定の示唆が得られた。加えて、未公表のものを含む6点の碑文の校訂・再校訂により、中世初期南アジア史研究の史料拡充に貢献した。

研究成果の概要(英文)：This research reveals the social change in early medieval Bengal, which would culminate in the formation of casteic social order of the region, namely, the establishment of identity, networks and authority of brahmanas, the organisation of occupational groups and the trial of the former to mould the latter into a hierarchical systematic order. It also gives a suggestion for different processes of social formation in the other East Indian regions. Apart from that, it contributes new evidences to the study of early medieval South Asia through editions and re-editions of the six inscriptions including unpublished ones.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東洋史 南アジア 東インド 中世初期 社会形成 碑文

1. 研究開始当初の背景

南アジア中世初期史研究においては、インド封建制論、分節国家論、統合的政体論など、社会経済史の観点からその変化を捉える様々な理論が提起・議論され、階層的な政治権力の形成、農業の未開地への拡大、非農業部族民の定住社会への編入などが共通して認められるに至った。また、部族社会から都市社会にいたる様々な社会が共時的に存在することの理解と、それら多様な社会の相互関係の、各地域の歴史過程に即した研究の必要も明らかとなった。このような研究動向を受けて、研究代表者も中世初期ベンガルの農村社会とそこにおける社会関係・権力構造の解明を研究課題としてきた。それを通して、土地への権利の重層化、土地保有有力者層と従属支配者層の台頭に伴う権力関係の複雑化を基軸とする歴史変化の一定の方向性が示されたが、一方で、このような変化がその後の社会変化、特に現代まで続くカースト的秩序にどのように繋がるかについて展望を示す必要が実感され、本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

当研究は、中世初期東インド諸地域、すなわちベンガル、ビハール、アッサム地域におけるカースト的社会の形成を、ブラーフマナ識字エリート層による規範の構築と、他の社会集団によるその受容・抵抗という諸社会集団間の交渉の過程として捉え、その結果として形成された社会秩序の中世における展開を展望し、また東インド諸地域におけるこのような社会変動の相違と類似性を考察することを目的とする。

3. 研究の方法

当研究では、中世初期東インド諸地域におけるカースト的社会像の体系化とその受容の過程を、諸社会集団の包含と彼らによる抵抗の側面から再検討する。その際、諸史料の研究を通してそれら諸集団間の権力関係を考察し、このような社会形成の歴史的な文脈を理解する。また、各地域での現地調査によりその地理的・環境的差異への理解を深め、テキストのより適切な読解に資するとともに、資料収集、特に各地域の博物館に所蔵された銅板文書・像銘や遺跡に残された石碑などの碑文史料の調査・収集に努める。

4. 研究成果

当研究の主な研究成果としては、以下の3点が挙げられる。

(1) 中世初期ベンガルにおける社会形成過程の解明

文献・碑文史料の読解を通して、ベンガルにおける後代のカースト的社会秩序形成に結実する、中世初期の社会変化の過程を明らかにした。その過程はベンガルの各下位地域における農業拡大、農民層の階層分化の進展、

在地王権の成立とその下で統合される従属支配者層の登場、両者の交渉・権力関係の推移を背景とするが、新史料の校訂およびその解釈により、東部における農業開発・国家権力の初期の様相、南部における土地保有有力者層の台頭などの過程がより明確となった。

このような理解の上で、ブラーフマナ層のアイデンティティー、ネットワークおよび権威形成の過程を研究した。そこでは、5・6世紀には在地土地保有者層の一部として未だ明確なアイデンティティーを獲得していなかった彼らが、7世紀以降、政治権力による土地・村落施与の主な被与者となる中で、次第に自己のアイデンティティーを確立していく過程がまず明らかとなった。9世紀以降には王権の保護を受ける高位のブラーフマナらが台頭するが、彼らは北インド中心地、マディヤデーシャの出自を主張し、学識・出自・親族関係による他の在地ブラーフマナらとの区別の明確化を図った。彼らは儀礼の専門家、適切な社会慣習の護持者として王権に奉仕して土地・村落施与を受け一方で、ベンガル内外で移住を繰り返して、拠点村落を中心とするネットワークを形成した。また、プラーナ文献の編纂を通して農村の祭礼を再編し、自己の関与を深めていった。このような活動を通して、ブラーフマナらは宮廷および農村の双方に権威を確立し、それに基づいて後述のように自己の世界観・価値観による社会の再編成・体系化を試みた。

ブラーフマナ層によるアイデンティティーとネットワークの形成と同時期に、職能集団のアイデンティティー明確化と組織化も進行していた。まず特筆すべきは、パーラ朝王の発行する銅板文書の銘刻を専門とする書記の諸家系の活動である。ある家系は東ベンガルの出身地に基づくアイデンティティーを保持しつつ、また別の家系は特定村落を拠点として明示しつつ、北ベンガル全域からビハール東部に至る広範囲において同じ業務を果たしている。そこには、ブラーフマナらと同様のアイデンティティー確立とネットワーク形成の傾向が認められる。

商人集団についても同様の傾向が見られた。5・6世紀北ベンガルの諸都市において彼らが同業者集団を形成し、同様の組織を持つ職人、手工業者らと協力関係にあったことは同時代の銅板文書から知られるが、新発見碑文により、彼らの一部が王権への武力奉仕を通して従属支配者となっていく一方で、別の集団は貨幣経済の浸透が進んだ農村部で商業活動を継続していたことが明らかとなった。これらの商人達は、農村の市場を拠点としつつ、ヴァニググラマと呼ばれる同業者集団を横断的に形成し、独自の取り決めによって構成員の活動を規制するなど、自律性と共同性を発揮していた。

13世紀に編纂されたブリハッダルマプラーナからは、このような同業者集団の組織化に加えて新たな社会集団の編入が進む社会

状況に対する、ブラーフマナ層の対応が読み取られる。彼らは、自己の権威を農村で確立し、プラーナ文献の編纂により在地の慣習・信仰体系を取り込む中で、新たな社会的現実を自身の世界観・社会観に則って認識・解釈し、他集団に対する自己の優位が保たれる形で再編・体系化することを試みた。その際に用いられたのは、悪王ヴェーナの身体からの善王プリトゥと森林住民の始祖ニシャダの誕生の神話と、4 ヴァルナ間混交によって様々な社会集団の起源を説明するヴァルナサンカラの理論であった。両者を組み合わせることにより、定住農耕社会の拡大に伴って接触が増大した外部社会集団と、台頭する諸職能集団の双方の存在を説明するとともに、それらを自己を頂点とするブラフマニカルな価値観に基づいて序列化することが可能となった。一方、諸職能集団の記述からは、ブラーフマナらの、別系統の知識を有する書記・医者・占星術師など他の識字層への認知・妥協・警戒や、金商人・金細工師など富裕商工業者層への警戒が読み取られ、そこにはこの試みに伴うブラーフマナらと他の社会集団との交渉と緊張関係が認められる。

ブラーフマナらによる体系化とそれを支える論理は、近代ベンガルのカースト秩序につながるものであったが、それが他集団に押しつけられ、受容されるに当たっては、中世後期を通じた長い過程が想定される。その過程が単純でなかったことは、ブラフマヴァイヴァルタプラーナにおける別の神話的解釈の試みにも明らかであるが、テュルク勢力の征服によりブラフマニカルな価値を保護する王権が失われる中でも、アーディシューラやバッラーラセーナという伝説的な王達の事績という新たな正当化の形態を取りながら、ブラーフマナらにより構想されたカースト的秩序は定着していったと考えられる。

(2) 東インド各地域における相異の展望

広範な現地調査を通して東インド各地域の遺跡調査および史料収集を行うとともに、上に述べたベンガルの事例との比較を通して、各地域における社会形成過程の相異を展望した。オリッサではブバネーシュワル、ジャジプル、プリー付近の遺跡を調査したが、それにより平野に張り出した丘陵上に仏教僧院が建立され、平地の著名ヒンドゥー寺院群がいくつかの宗教センターとして発展し、また非定住社会が現在に至るまで存続する当該地域の現状と歴史過程が理解され、主に新旧デルタにより構成され、寺院を中心とするセンターが発展しなかったベンガルにおける社会形成の特徴、特にその中でブラーフマナと彼らの居住地の拡大が果たした役割の重要性が浮き彫りになった。

アッサムではグワハティ、テーズプル、ナガオン近辺に散在する、ブラフマプトラ川中流域の遺跡を調査したが、その結果、5世紀から7世紀の平野部の煉瓦建築から8世紀

以降の流域丘陵部の石造建築へと寺院建築が変化する傾向が認められ、それらと碑文から読み取られる河川流域から内陸への農業拡大とそれに伴う非農耕社会との接触、さらに彼らの宗教センターのブラフマニズムへの包含の過程との関連が推定された。また、ディブルガルからジョールハートに至るブラフマプトラ川上流域の遺跡とヴィシュヌ派僧院サットラの調査により、14世紀に移住したタイ族によるアホム王朝の成立と彼らによるブラフマニズム受容および労役に基づく特異な社会制度の導入が、東インド他地域と異なる、カースト的規制の弱い社会形成をもたらしたことが展望された。

ビハールでの調査はガヤー県を中心とする南部に限定されたが、紀元前6世紀に遡って都市および国家が存在し、ナーランダーをはじめとする大規模仏教僧院やシヴァ派の行者集団、ガヤーを拠点として葬送儀礼を専門とするマハーブラーフマナや太陽崇拝者であるマガブラーフマナなど様々な宗教権威が共時的に存在・競合する同地域におけるカースト的社会の形成は、その後のテュルク、アフガン勢力の征服と定着もあってより複雑な様相を呈したことが展望された。

(3) 碑文の校訂・再校訂による史料の拡充

ベンガルに関わる銅板文書4点、石碑2点を校訂・再校訂したが、それらのうち2点は未公表、3点は不十分な校訂しかなく、以前の校訂に大幅な修正と内容に関する詳細な議論を加えたもう1点を含めて、中世初期南アジア研究の史料拡充に貢献した。特筆すべきは、ラジビタ石碑に見られる11世紀北ベンガル農村における、ヴァニググラーマと呼ばれる同業者集団を結成した商人達の活動と、ヴァイニヤグプタの新銅板文書から明らかとなった5・6世紀東ベンガルにおけるアージーヴィカ教団の繁栄である。最後の文書に引用されたナータチャンドラの銅板文書からは、5世紀初頭の東ベンガルですでに定住農耕社会の発達と国家形成が進行していたことも判明した。これらはいずれもこれまでの史料からは知られていなかった事象であり、南アジア、特に東インド中世初期史研究に新たな視点を提供するものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10件)

- ① Furui, Ryosuke, 'The Third Copper Plate Inscription of Vainyagupta from Bangladesh, Year 184', *Epigraphia Indica*, 査読なし, forthcoming, 掲載決定.

- ② Furui, Ryosuke, 'Agrarian Expansion and Local Power Relation in the Seventh and Eighth Century Eastern Bengal: A Study on Copper Plate Inscriptions', Ratnabali Chatterjee (ed.), *Urbanity and Economy: The Pre Modern Dynamics in Eastern India*, Kolkata: Setu Prakashani, 査読なし, 2014, pp.96-110.
- ③ 古井 龍介、「ベンガル社会の形成—中世初期におけるその萌芽—」、『南アジア研究』、査読なし、25号、2013、pp.45-53.
- ④ Furui, Ryosuke, 'Chaprakot Stone Inscription of the Time of Gopāla IV, Year 9', *Centenary Commemorative Volume (1913-2013)*, Dhaka: Bangladesh National Museum, 査読なし, 2013, pp.110-117.
- ⑤ Furui, Ryosuke, 'The Kotalipada Copperplate Inscription of the Time of Dvādaśāditya, Year 14', *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series*, 査読有, Vol.4, 2013, pp.89-98.
- ⑥ Furui, Ryosuke, 'Finding Tensions in the Social Order: a Reading of the Varnasamkara Section of the Bṛhaddharmapurāṇa', Suchandra Ghosh, Sudipa Ray Bandyopadhyay, Sushmita Basu Majumdar and Sayantani Pal (eds), *Revisiting Early India: Essays in Honour of D. C. Sircar*, Kolkata: R. N. Bhattacharya, 査読なし, 2013, pp.203-218.
- ⑦ Furui, Ryosuke, 'Br̥hmanas in Early Medieval Bengal: Construction of their Identity, Networks and Authority', *Indian Historical Review*, 査読有, Vol.40, No.2, 2013, pp.223-248.
DOI: 10.1177/0376983613499676
- ⑧ Furui, Ryosuke, 'Merchant groups in early medieval Bengal: with special reference to the Rajbhita stone inscription of the time of Mahīpāla I, Year 33', *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, 査読有, Vol.76, Issue 3, 2013, pp.391-412.
DOI: 10.1017/S0041977X13000451
- ⑨ Furui, Ryosuke, 'Rangpur Copper Plate Inscription of Mahīpāla I, Year 5', *Journal of Ancient Indian History*, 査読なし, Vol. 27, 2010-11 (2012), pp.232-245.
- ⑩ Furui, Ryosuke, 'Panchrol (Egra) Copperplate Inscription of the Time of Śaśāṅka: A Re-edition', *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series*, 査読有, Vol.2, 2011 (2012), pp.119-130.
- [学会発表] (計 5件)
- ① Furui, Ryosuke, 'Variegated Adaptations: State Formation in Bengal from the 5th to the 7th Century', The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks, State Formation and Social Integration in Pre-Modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society, March 9, 2014, Toyo Bunko, Tokyo.
- ② Furui, Ryosuke, 'Inscribed Powers: Copper Plate Inscriptions of Eastern India and their Changing Forms', CSMC Conference on "Manuscripts and Epigraphy", November 15, 2013, Centre for the Study of Manuscript Cultures, Universität Hamburg, Hamburg, Germany.
- ③ Furui, Ryosuke, 'Bangladesh National Museum Vase Inscription of the Time of Devātideva and its Implications for the Early History of Harikela', Centenary Celebration of Bangladesh National Museum 1913-2013 International Seminar, July 9, 2013, Bangladesh National Museum, Dhaka, Bangladesh.
- ④ Furui, Ryosuke, 'Ājīvikas, Mañibhadra and Early History of Eastern Bengal: A New Copper Plate Inscription of Vainyagupta and its Implications', Monthly Lecture Programme, March 22, 2013, Department of Ancient History and Culture, University of Calcutta, Kolkata, India.
- ⑤ 古井 龍介、「ベンガル社会の形成：中世初期におけるその萌芽」、日本南アジア学会第25回大会、2012年10月7日、東京外国語大学、東京
- [図書] (計 0件)
[産業財産権]
○出願状況 (計 0件)
- 名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古井 龍介 (FURUI, Ryosuke)
東京大学・東洋文化研究所・准教授
研究者番号：60511483

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：